

■水道の事業環境の変化

枚挙にいとまがない課題

- ・給水人口・給水量、料金収入の減少
- ・水道施設の更新需要の増大
- ・水道水源の水質リスクの増大
- ・職員数の減少によるサービスレベルの影響
- ・東日本大震災を踏まえた危機管理対策

■関係者が基本理念を共有し、一丸となった対応が必要

関係者が共有すべき理念

- ・これまでの130年間に先達が築き上げてきた地域の需要者との信頼に基礎を置き、地に足のついた対応を図る。

世界のトップランナーのバトンを未来へつなぎ、水道を次の世代に継承

新水道ビジョン

【基本理念】 地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道

水道の理想像

- 時代や環境の変化に対して的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道

全ての国民が、いつでもどこでも、水をおいしく飲める水道

【安全な水道】

安全

【強靱な水道】

強靱

自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道

持続

給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道

【水道サービスの持続】

50年後、100年後を見据えた水道の理想像を提示し、関係者間で認識を共有

重点的な実現方策

水道関係者によって「挑戦」「連携」をもって取り組むべき方策

- 1 関係者の内部方策
  - (1) 水道施設のレベルアップ
  - (2) 資産管理の活用
  - (3) 人材育成・組織力強化
  - (4) 危機管理対策
  - (5) 環境対策

- 2 関係者間の連携方策
  - (1) 住民との連携(コミュニケーション)の促進
  - (2) 発展的広域化
  - (3) 官民連携の推進
  - (4) 技術開発、調査・研究の拡充
  - (5) 国際展開
  - (6) 水源環境の保全

- 3 新たな発想で取り組むべき方策
  - (1) 料金制度の最適化
  - (2) 小規模水道対策
  - (3) 小規模自家用水道等対策
  - (4) 多様な手法による水供給